

## 近代の岐阜市における岐阜公園の位置づけ

岐阜大学 学生会員 渡邊亜希  
岐阜大学 正会員 出村嘉史

## 1. はじめに

現在または将来に適切な都市計画を遂行するためには、過去にどういった計画がされてきたのかを知ることが必要である。岐阜市に着目すると、近代に施行された岐阜都市計画には早い段階から岐阜公園が含まれていた。当時の公園の成り立ちやデザインに着目することによって、当時の岐阜市が描いた都市像を知ることができるのではないかと考える。本研究は、近代都市施設として誕生した岐阜公園が、当時計画都市を目指す岐阜市において、社会的にどう位置づけられたのかを各種史料<sup>1)</sup>を分析することにより明らかにし、その経緯を鳥瞰することを目的とする。先行研究<sup>2)</sup>では、岐阜公園の歴史を公園開設期、拡張整備期、系統的整備期、施設整備期、多角的整備期、ソフト整備重視期と、6つの時期に分けて説明している。この研究は、岐阜公園の歴史概要を明らかにしたものであって、都市計画に焦点を当てたものではない。これに対して、本研究は主として都市形成過程における岐阜公園の位置づけに着目したものである。

## 2. 岐阜公園の概要

## (1) 現在の岐阜公園

金華山西麓にあり、岐阜駅より北へ約4kmに位置する。整備が行き届いており、名和昆虫博物館や織田信長公居館跡、歴史博物館がある。また、公園と金華山を結ぶロープウェイを利用すると、岐阜城を見学できるなど歴史的な印象を受ける公園である。こういった施設に観光で訪れる人もいるが、休憩所やベンチが設置されていたり、公園周辺には川原町広場があったりと、市民の憩いの場にもなっている。

## (2) 岐阜公園の4つの時期

岐阜公園が都市計画公園とされるまでの経緯は、現時点で整理できている内容から考察すると、以下の4つの時期に分けられる。これらの中で、(a)、(d)の時期が岐阜市全体の都市形成にとって重要な動きのある時期である。それらとの関連が考えられるそれぞれの時期の要点を確認したい。

## (a) 公園開設期(明治20年代前半)

岐阜公園は明治15年に開園の許可が下りる<sup>3)</sup>。その後は放置されるが、一連の運動が起こり、明治21年に開園式を迎えて、しばらく盛況する時期。

## (b) 公園閑散期(明治20年代後半)

開園した当初は多くの人で湧きかえったが、これは一時的な盛況にとどまり、それ以後は打ち捨てられたような状態となる<sup>4)</sup>時期。

## (c) 再整備期(明治30年代後半～明治終わり)

明治37年に名和昆虫博物館が岐阜公園に移転、拡張、また明治43年に模擬天守閣が建てられ、多くの人が公園を訪れる時期。

## (d) 都市計画期(大正時代後半以降)

岐阜都市計画公園として、岐阜公園の拡張が計画される。その前後に風致指定や多くの共進会や博覧

会が開催され、都市計画が市のみならず、民間レベルでも進められる時期。

## 3. 公園開設の背景と主体

『岐阜消防沿革史』<sup>5)</sup>を参考に述べる。岐阜公園は明治15年に開園するが、公園地一帯は鬱蒼とした竹林と桑畑となってしまふ。明治18年頃、岐阜の発展のためにと、当時の岐阜市議員の小川汲三郎が発起人となり、公園の開墾に着手する。しかし、開墾は思うようには進まず、多大な費用を要し、ついには中止となってしまふ。この状況を残念に思った当時の岐阜県知事小崎利準は、岐阜公園の開墾を当時火災の防衛のために岐阜町民によってつくられた自治組織である消防組に受諾させる。公園内に倶楽部や物産陳列場などの公共施設の建築が進み、茶店、出店の出願も相次ぎ、盛況していた状況の中で、岐阜公園は明治21年に開園式を迎えた。岐阜日日新聞<sup>6)</sup>では当時の様子を「此開園式に付利益を占めたるものは加納停車場を始めとし大通の宿屋、稲葉邊の料理屋(中略)果物屋に至るまで意外の繁昌を爲し(中略)本日に及び公園地帯邊尚ほ賑かなるべし」と表現しており、開園後に公園一帯が大変盛況していたことが伺える。また、開園当日に岐阜市内を徘徊する人は3万人余りいた<sup>7)</sup>ため、岐阜公園の開園は岐阜市にも大きな影響を与えたと思われる。

## 4. 経済発展を目指す岐阜市

## (1) 岐阜市と公園の位置づけ

大正時代に入ると岐阜市では多くの共進会や博覧会が開催されるようになる(図1)。それらの開催理由には、市民の利益を図るため<sup>8)</sup>、邦産業の現状を評価するため<sup>9)</sup>、経済の退勢を挽回するため<sup>10)</sup>といったものがあるが、ここから岐阜市が経済的な発展を目指す様子が伺える。躍進日本大博覧会においては、図2からも分かるように岐阜公園が会場となっており、公園は岐阜市の経済発展をアピールする場となっていたのではないかと考えられる。

大正	4年	8月	御大典記念共進会
	8年	9月	岐阜市制30年記念内国勸業博覧会
	14年	9月	銀婚式奉祝国産共進会
昭和	11年	3月	躍進日本大博覧会

図1 岐阜市で行われた共進会や博覧会



図2 躍進日本大博覧会会場配置図

## (2) 市営ホテル建設とその背景

共進会や博覧会の開催が相次ぐなか、昭和7年には市営長良川ホテルの建設が行われた。当時、岐阜市は遊覧都市化7割、商工都市化3割の方針で進展しており、鶯飼が行われる長良川沿いの観光開発が注目<sup>11)</sup>されていた。また、鶯飼は世界的名物と言われ、市は外国人を迎える施設の建設を切望していた。昭和5年の予算編成方針では、上下水道には着手せず、遊覧施設に全力を注ぐことになった<sup>12)</sup>ことから、遊覧ホテルは市政の重要事業とされていたことが分かる。また、大正時代から多くの岐阜市街図や岐阜市案内が発行されており、昭和2年に発行された岐阜市案内には鶯飼の案内が英語で表わされている。ホテルには日本間6部屋に対して洋室15部屋が用意しており、また撞球場もあって<sup>13)</sup>、外国人向けの施設であることが伺える。ホテルの建設は長良川から岐阜公園の間で行われた<sup>14)</sup>ことから、岐阜公園は鶯飼、ホテル建設とも結び付けられ、外国人観光客誘致のための施設としても扱われていたと考えられる。

砂本<sup>15)</sup>によると、明治時代の終わりから大正時代にかけては、全国のリゾート地や景勝地に外国人の宿泊を前提としたホテル建設が進み、外客誘致事業に対する認識が高まっていたとされる。昭和5年には国際観光局が設置され、国際観光政策が始まる。国際観光地が選定され、移動ルートの検討が行われた。東海道下り経路には岐阜駅が含まれ、鶯飼が観光地として記載されたが、この経路において、岐阜駅のみホテルが設置されていなかった。岐阜市が先に述べたようにホテル建設を切望していた背景には、全国で外客誘致事業の動きがあったためではないかと考える。

## 5. 都市計画における岐阜公園

昭和4年に発行された『岐阜都市計画概要』<sup>16)</sup>によると、岐阜市はその発展の状況から都市の重要施設がよく機能するようにと、大正12年に都市計画法施行の指定を受ける。同史料によると、この都市計画では、区域決定に伴う街路の決定と共に、岐阜都市計画公園の指定も行われている。当時、市民1人に対して公園面積を1坪要することが理想とされたが、岐阜市の公園は1人あたり0.84坪で、公園面積が足りないとされた。そこで、岐阜公園の拡張とその他6箇所の公園の新築が計画される。

「岐阜都市計画公園事業執行年度決定の件」<sup>17)</sup>によると、岐阜都市計画街路金町線の完成を機に、昭和11年に都市計画公園の実現を決定し、昭和11年度から15年度にかけて執行すると決定したことが示されている。しかし、同史料に添付された岐阜都市計画事業公園計画図(図3)にはあらゆる場所に図4のような樹木の種類や寸法などが詳しく記されているだけで、施設などは明記されていない。

岐阜県には林業を行う山林会という組合があり、岐阜県庁内に設置されている。大正4年に発行された「林業国」<sup>18)</sup>によると、山林会が行う林業は、森林を要求する者と圧迫する者の間に入り、樹木を守ることや植樹を進めていくことを目的としている。大正時代には、天皇の即位の記念方法として、植樹、造林事業を適切な企画としており、盛事と植樹を結び付け、植樹や造林を勧めている。計画図に詳しく描かれる樹木は、こういった山林会の動きが影響しているのではないかと考えられる。

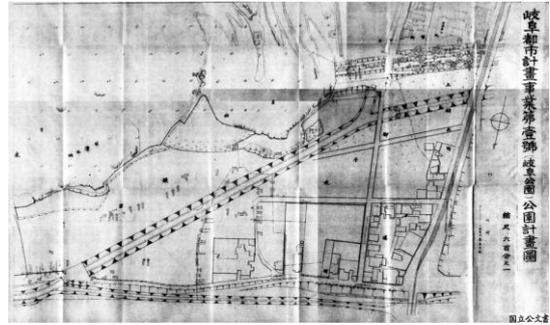


図3 岐阜都市計画事業図

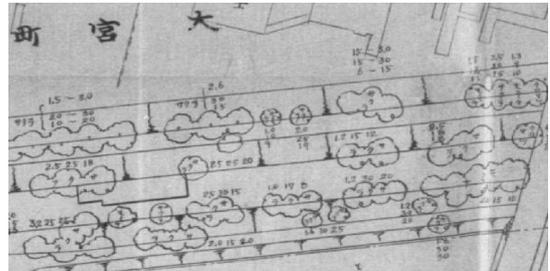


図4 岐阜都市計画事業公園計画図一部拡大版

昭和9年には、「岐阜都市計画風致地区決定の件」<sup>19)</sup>が申請された。これによると、岐阜市にある景勝地が岐阜都市計画風致地区に指定され、風致維持に影響を及ぼす行為が禁止、制限された。岐阜公園の敷地も風致地区に含まれている。

## 6. 近代の岐阜市における岐阜公園の位置づけ

鶯飼やホテルと結び付けられたり、多くの共進会や博覧会が開催されたりと、岐阜市にとって観光地としてだけでなく、経済発展をアピールする場として活用された。しかし、観光としてや市民の憩いの場として利用されるだけではなく、風致の維持のために風致地区に決定されるなど森林公園として保護されてきた。このようなことから、岐阜市にとって岐阜公園は、今後の発展や環境維持のために都市計画公園に指定し、守っていかなければならない存在であったと考える。

今後は、さらに史料収集を行い、事実の背後にある関係性の調査や、都市計画における戦略的背景の解明をしていきたい。また、明治20年に加納停車場(後の岐阜駅)が開設されていることや、明治22年に岐阜に市制が布かれたことから、鉄道や市制との関連も調査していきたい。

## 参考文献

- 1) 国立公文書館、国立国会図書館、岐阜県図書館、岐阜県歴史資料館、岐阜市博物館を始め、各種アーカイブより収集した一次資料を用いる。
- 2) 吉田壯志、公園整備にみる都市アメニティの変遷に関する研究、卒業論文、2005
- 3) 岐阜県議会史編さん委員会、岐阜県議会史第一巻、「岐阜公園の開園」、岐阜県議会、1980
- 4) 前述、吉田
- 5) 玉田源太郎、消防沿革史、1939
- 6) 岐阜日日新聞、「開園式の景況」、1888.11.2
- 7) 前述、岐阜日日新聞、1888.11.2
- 8) 岐阜日日新聞、「一日一人」、1914.2.5
- 9) 岐阜市役所、岐阜市史通史編近代、「催し物と観光」、1981
- 10) 前述、岐阜市史通史編近代、「催し物と観光」、p.619、1981
- 11) 前述、岐阜市史通史編近代、「催し物と観光」、pp.620-621、1981
- 12) 前述、岐阜市史通史編近代、「催し物と観光」、p.621、1981
- 13) 前述、岐阜市史通史編近代、「催し物と観光」、p.622、1981
- 14) 前述、岐阜市史通史編近代、「催し物と観光」、p.621、1981
- 15) 砂本文彦、近代日本の国際リゾート、2008
- 16) 岐阜市役所、岐阜都市計画概要、1924
- 17) 内閣、岐阜都市計画公園事業執行年度決定の件、1936
- 18) 岐阜県山林会事務所、岐阜県山林会報、「林業の目的」、1916
- 19) 内閣、岐阜都市計画風致地区決定の件、1934